

《ファゴット伴奏付きピアノ=フォルテ協奏曲》(1807年頃。偽作と判断)¹

水谷 彰良

[偽作と判断] ファゴット伴奏付きピアノ=フォルテ協奏曲 [ファゴットとピアノのためのアレグロ]

Concerto a Piano-Forte con Accomnamento di Fagotto

作曲 1807年頃 [根拠を欠く]

初演 不明

編成 ファゴットとピアノ

演奏時間 約10分(第1楽章のみ)

自筆楽譜 不明(筆写譜のみが典拠。第三者による偽作であれば、そもそもロッシェーニの自筆楽譜は存在しない)

初版楽譜 Wien, Universal Edition, 1991. (Gioacchino Rossini: Allegro für Fagott und Klavier = Allegro for bassoon and piano., herausgegeben von William Waterhouse.)

現行版 同上

全集版 未成立(おそらく採用されない)

構成 へ長調、4/4拍子、アレグロ

註: 前記ユニフェルザール版に準拠。筆写譜は三つの楽章からなるが、ロッシェーニ作として出版されたのは第1楽章のみ。

解説

現時点で詳細不明ながら、WGR-1²に上記題名と同時代の手写譜における記載——「15歳で彼の友人アントーニオ・ゾーボリのために特別に作曲(Espressamente composto per il suo amico Antonio Zoboli nell'età di Anni 15)」——が引用されている(ウィリアム・ウォーターハウス[William Waterhouse]がリチャード・ボニング・コレクションに基づくとした献辞内容として)³。

アントーニオ・ゾーボリ(Antonio Zoboli, 1790頃-1870頃)はロッシェーニと同窓のアマチュア・ファゴット奏者で、少年時代からの友人である。1811年にはロッシェーニの指揮したハイドンのオラトリオ《四季》にも奏者として参加し、ロッシェーニがゾーボリのためにこのファゴット・ソナタ⁴を作曲する可能性がゼロとは言えないが、自筆楽譜は未発見で、2種の19世紀の筆写譜のみが典拠となっている。その第2楽章はハイドン《天地創造》の楽曲の編曲で、第1楽章と第3楽章のみをロッシェーニの真作とする根拠を欠く。作曲時期の推定「1807年頃」⁵も筆写譜の一つに書かれた「15歳で作曲」に基づく推測にすぎず、《天地創造》のボローニャ初演が1808年であることから15歳(1807年頃)の作とは考え難い。それゆえ現時点では偽作の可能性が高い、と言わざるを得ない。初版楽譜は第1楽章のみが、ウィリアム・ウォーターハウスによって1991年にヴィーンで出版された(上記初版。へ長調、4/4拍子、アレグロ)。

推薦ディスク:

- ・Susan Nigro (Contrafagotto) Crystal Records CD845

註: コントラファゴットによる演奏のため印象が異なるが、現時点で唯一の録音。



¹ 初出は『ロッシェーニアーナ』第33号所収「ロッシェーニ全作品事典(25)ロッシェーニの器楽曲①」。HP用の改訂版、2015年1月。

² *Works of Giachino Rossini*, vol.1. Chamber Music without piano, Bärenreiter, 2007.

³ *Ibid.*, p. XIV 及び n. 32

⁴ 筆写譜の題名は《ファゴット伴奏付きピアノ=フォルテ協奏曲》であるが、実質的にはピアノ伴奏のファゴット・ソナタ。

⁵ WGR [*Works of Giachino Rossini*] のサイトでは、ゴセットが注釈なしにこの作品を「1807年頃」としている。